

編集後記

今回、はじめて編集委員として関わり、技術者としての光栄な瞬間を迎えている。かつては、自身も研究開発を進めつつ期日に追われながら執筆する日々を送った経験が蘇る。当時と比べ、世の中はより複雑になり、先の見通しも難しい局面に技術者は立たされており日々奮闘されていることと思う。そのような状況の中、今回はシミュレーションを活用した予測技術に焦点を当てた。このテーマは、原理・原則に基づいて実世界のシステムやプロセスを高精度にモデル化し、それを製品に応用することで、お客様に新たな価値を提供できる重要な技術である。今後も一技術者として、また編集者として新たな技術の創出とそれを通じた社会的課題の解決に向けて、読者の皆様に価値ある情報を提供できるよう努めていきたいと思う。(藤波委員)

昨年から技報編集に携わせていただいている。文系・事務職である私は主に随筆の編集を担当し、執筆依頼も行っている。近年の海外駐在からの帰任者は異国でのコロナ対応に苦勞された方々である。依頼の際には、コロナ禍の海外駐在中は会社と自宅の往復ばかりで寄稿できるネタがないなどの話もあり、寂しくもあり厳しい時期であったと思う。ウィズ コロナ、アフターコロナともいわれているが、随筆では駐在先での業務(仕事の話)だけでなく、各地での仕事以外の楽しさ、難しさ、魅力を執筆者とともに発信していくことも重要な責務だと考えている。今後も是非皆様の経験を寄稿いただきたい。(天野委員)

コロナが5類感染症に位置付けられるに伴い規制も緩和され、行楽地は嘗ての賑わいを取り戻し始めた。一方、梅雨明けやらぬ頃から猛暑日が続く、溶けてしまうのではないかと感じるほどの熱量で外出をためらってしまう。地球の温暖化が紛れもなく進んでいることを思い知らされる。CO₂排出量削減は今や世界標準であるが、今号にも軽量化や高効率化といった省エネルギーに繋がる技術の掲載があることに安心感を覚える。将来起り得る環境変化を想定しつつ、絶え間なく研究開発を継続している技術者達に感謝するとともに、カヤバ技術の更なる高みへの挑戦に期待する。(萩平委員)

編集委員

| | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------------|
| ◎伊藤 隆 | 技術本部基盤技術研究所 | 梅田 禎典 | HC事業本部技術統轄部 |
| 梶澤 亮一 | 技術本部基盤技術研究所 | 米川 典秀 | HC事業本部技術統轄部 |
| 藤波 太郎 | 技術本部生産技術研究所 | 小林 弘孝 | HC事業本部技術統轄部 |
| 周防 士朗 | 技術本部知的財産部 | 萩平 慎一 | 航空機器事業部技術部 |
| 天野 玄規 | 経営企画本部経営企画部 | 川島 茂 | 特装車両事業部熊谷工場技術部 |
| 太田 康洋 | AC事業本部技術統轄部 | 奥村 一千 | カヤバモーターサイクルサスペンション(株)第三設計室 |
| 宮谷 修 | AC事業本部技術統轄部 | 河野 義彦 | (株)タカコ技術本部開発部 |
| 佐々木和弘 | AC事業本部技術統轄部 | ○小畑 宏 | 技術本部技術企画部 |
| 野口 洋一 | AC事業本部MD事業部生産技術部 | ○大林 義博 | 技術本部技術企画部 |
| 齋藤 啓司 | HC事業本部技術統轄部 | | |

◎編集委員長

○編集事務局

HC事業本部：ハイドロリックコンポーネンツ事業本部

AC事業本部：オートモーティブコンポーネンツ事業本部

カヤバ技報 第67号

〔禁無断転載〕 〔非売品〕

発行 行
編集発行人
発行所
2023年10月1日
カヤバ技報編集委員会
カヤバ株式会社
(2023年10月1日より、正式社名に
カヤバ株式会社を採用いたしました)
〒105-5128
東京都港区浜松町二丁目4番1号
世界貿易センタービルディング南館28階
電話 03-3435-3511
FAX 03-3436-6759
印刷所 勝美印刷株式会社/東京・白山

ホームページへの掲載のお知らせ

日頃、カヤバ技報をご愛読いただきありがとうございます。第50号(2015年4月発行)から、より多くの方々にご覧いただくことを目的とし、弊社ホームページへの掲載を行っております。是非ご利用下さい。

なお、冊子の発行は従来通り行ないますので、こちらをあわせてご利用下さい。

〈カヤバのホームページアドレス〉

<https://www.kyb.co.jp/>

(トップ画面からカヤバ技報バナーをクリックして下さい)